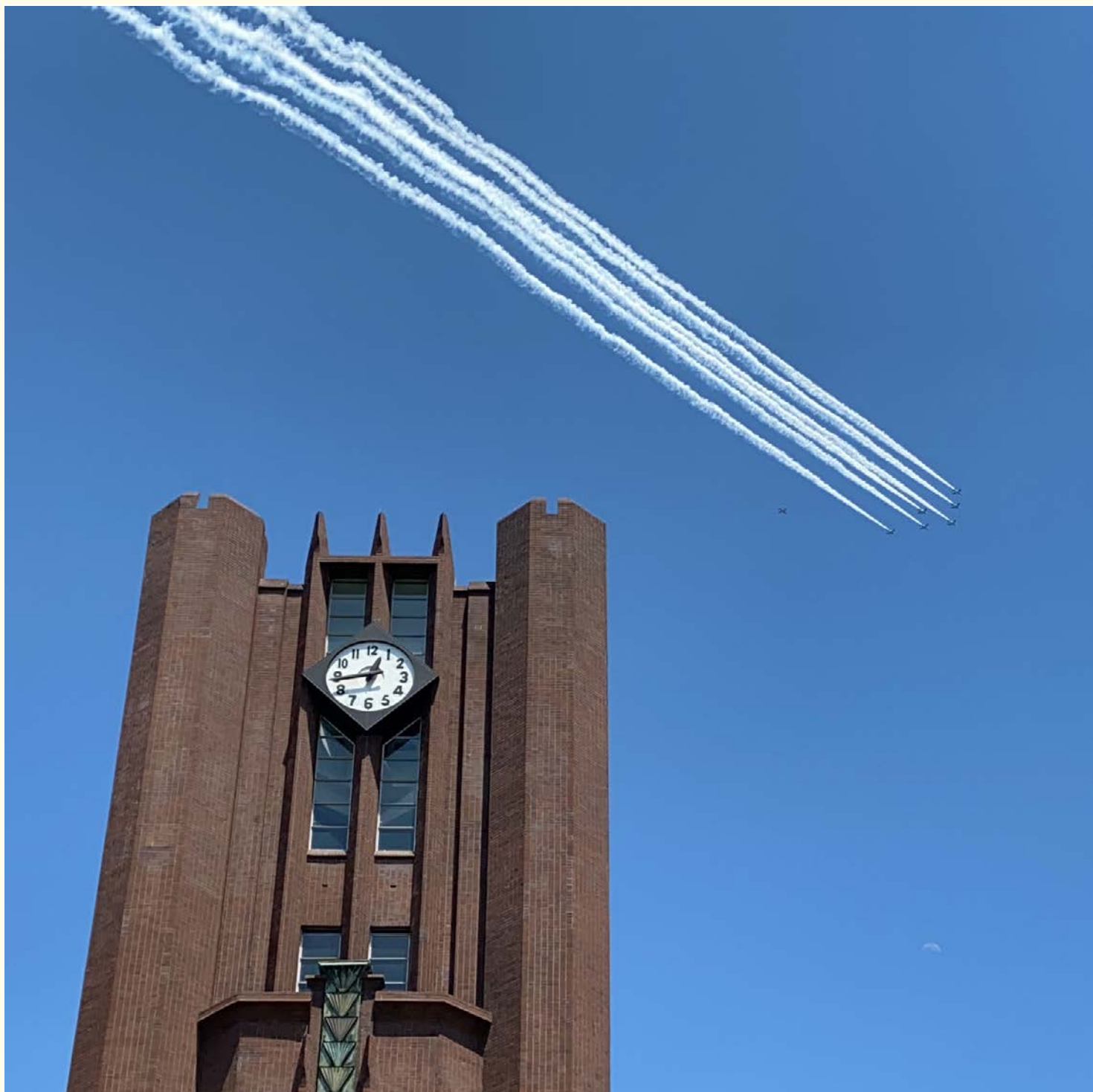


学内広報

2020.6.24

no. 1535



5月29日、安田講堂上空を通過するブルーインパルス（撮影：白川哲也）



志ある卓越。



百年史のウェブ公開を機に考える座談会

「百五十年史編纂への道」

コロナ禍 vs 東大 活動ピックアップ

百年史のウェブ公開を機に考える

百五十年史 編纂への道

2027年に大きな節目を迎える東京大学では、五十年史、百年史に続く百五十年史編纂の準備がすでにスタートしています。先日ついに実施された百年史のウェブ公開を機に、百五十年史編纂室の室員と編纂室に深く関係する皆さん8名に集まっていただき、百年史の見どころについて、そして来たるべき新しい大学史の姿とはどんなものなのかについて、座談会形式で語ってもらいました。

～編纂室関係者座談会より～



※1 大きな話題を呼んだ第19回駒場祭ポスター（昭和43年11月）。当時在学中だった橋下治さんによるコピーが流行語に。『東京大学百年史』通史三 p13より

百年史へのアクセスはこちらから
https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/03_03_j.html

佐藤●まずは自己紹介と大学史との関わりを。

フォークダンスも捉えていた百年史

苅部●私は政治思想史が専門で、百年史は読者として利用してきました。特に博士論文を書く際によく参照した記憶があります。今回改めて読んでみて、発見がありました。通史三の巻頭に駒場祭と五月祭の写真があります。駒場祭は1968年のポスターで、橋本治のコピーで有名な作品です^{*1}。五月祭は1974年に総合図書館屋上から撮ったもので、一見、何をやっているかわかりません^{*2}。たまたま私は別の本で見たことがあったのでわかったんですが、これはフォークダンスの様子です。東大の歴史と同時に、日本の近現代の諸事情を知る上でも有意義な史料だと思います。

岩田●情報理工学系研究科は2001年にできた新しい部局です。私が学んだ計数工学科数理工学コースは、戦後にGHQの指示で廃止

された航空学科の教官が新たな学問を興そうとして作ったコースです。後で航空学科に戻ることもできたのですが、始めたばかりの数理工学を続けようとして、今日に至っています。大学のアクティビティには歴史的な経緯を受け継ぐ部分があると思っています。

井元●私はもと数学科で統計学が専門でしたが、2001年に医科研に来てゲノム解析を始めました。DNAの二重螺旋構造発見は1953年で、東大が百周年の頃、ゲノムのことはほとんどわかっていなかったでしょう。大学が百年史を記し、百五十年史を準備する間に大きく変わり、進展してきた、そういう学問領域で自分は働いているんだと感じます。

院生として百年史に関わりました

照沼●30数年前、文学部国史学科の大学院生だった頃に指導教官の伊藤隆先生に手伝うよう言われ、百年史に関わりました。下っ端

で全体のことは見えていませんでしたね。その後は文科省で教科書検定の仕事をしましたが、大学史史料室の中野実さんや寺崎昌男先生との交流は続いていました。定年後、お声がけいただき、編纂室の仕事をしています。

森本●文書館は百年史編纂事業が元になった組織です。140周年事業のなか、2016年度に百年史をデジタル化しDVDにしましたが、もっと使いやすいようにと昨年度末にUTokyoリポジトリに入れて誰でも見られる形にしました。五十年史と「東京帝国大学学術大観^{※3}」も近日ウェブ公開する予定です。

福田●私は博士課程の学生ですが、編纂室の特任研究員でもあります。専門は明治維新期日の貨幣ですが、日本史の研究室にいたので年史にも関わっていました。以前よりデジタルヒューマニティーズの研究グループに入っていたのが縁で呼んでいただいたのかと思います。全体の統括、実作業の割り振り、テレワークへの移行作業もやっています。

東大全共闘議長にもインタビュー

谷川●私も日本史学の博士課程の学生ですが、2018年度には編纂室の特任研究員でした。佐藤慎一先生による有馬朗人総長や吉川弘之総長のインタビューに同行し、書き起こし作業を手伝いました。そこで聞いた東大闘争の話に興味を持ち、闘った学生側の話も聞きたいと思ひまして、東大全共闘議長だった山本義隆さんに4回にわたってインタビューしました。原稿確認を進めているところです。

佐藤●百年史がウェブで見られるようになり、以前とは違う利用の仕方が開かれたように思います。利用者の便ということでは、今回しおり機能をつけたのが特長ですね。

岩田●1冊1000ページを超えるPDFの中で、見たいところにバツといけるのは便利ですね。

佐藤●百五十年史の資料編を作る時には、百年史も学術大観も五十年史も生かしたいです。一つのライブラリのように設計し、検索機能も組み込みたい。資料集がもう一つの図書館となり、歴史研究の基盤になるでしょう。

照沼●百年史の時とは事情が違いますね。いまは資料が膨大にあって、執筆者が生かし切れるかどうか心配です。資料の海に溺れてしまうんじゃないかと。

佐藤●海に出た人が美しく泳ごうと溺れようと、そこはしょうがないですね(笑)。

苅部●相互参照のシステムがあれば労力は減らせます。百年史に載ってないことでも学術大観には載っていたりします。たとえば、昭和10年代の文学部国史学科のことだったら学術大観の該当箇所に飛んでくれる、といった機能を持つ画面にしたいですね。

佐藤●百年史は組織の正史としてスクエアになる傾向があったと思います。ただ、大学史の中で学生生活の話に立ち入らないのでは物足りない。そこでは、五月祭の写真をフォークダンスと見破るような目が必要です。正史でない周辺資料はたくさんあります。そこまで視野を広げて社会との繋がりを論じることが新時代の大学史には必要かもしれません。

福田●たとえば卒業生の資料に対象を広げることで百年史と違う価値を示せると思います。データベースはまだ準備段階ですが、卒業生の進路がどうなっているのか、社会での活躍を追うのは重要です。紙で残る卒業生名簿や戦前の人名録などを一部OCRソフトで読み取って電子化しているものもあります。

佐藤●さて、今後のデジタルの活かし方について、前に井元先生に考えていただいたことがあります。そこで東大全体をVR博物館にする構想が出てきました。

東大キャンパスをVR博物館に!?

井元●十年後は、5Gから6Gへと移り、瞬時に大量のデータを転送できる時代。デバイスももっと進化するでしょう。VRゴーグルで構内を見ると100年前の姿が飛び出す、という企画は十分可能です。ただ、それには多くの資料や写真が必要で、東大にあるものだけでは不十分。地域住民、旅行者など、学外の人が撮った写真を集めて再構築する作業が必要です。首里城焼失後に市民の写真を募集して3DCGデータで復元した取組みがよい見本です。昔の東大をそうやって再構築する取組みはよいPR、よい歴史教材にもなる。と思って総長補佐の全体会でプレゼンしました。

佐藤●工学部列品館の前でiPadを掲げると、上から石を投げられる人が見える、とか。

井元●その場所で行われた研究の情報にもリンクできるとなおいいですね。

佐藤●ちなみに、戦時の航空機開発が計数工学へつながる話は語り継がれているんですか。

岩田●当時の決断をした先生たちの話を聞いているのが私たちの世代ですから、後世に残



※2 第47回五月祭風景(昭和49年5月)。説明は特に書かれていませんが、フォークダンスに興じる学生とそれを周りで見物する人が写っています。『東京大学百年史』通史三 p16より



※3 1942年、総説・文学部・法学部・経済学部・医学部・伝染病研究所・農学部・理学部・東京天文台・地震研究所の4巻を刊行。主な研究の概要と論文を収録



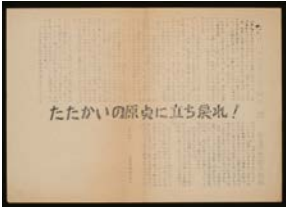
百年史の題字は茅誠司第17代総長の揮毫によるもの



4つある創設文書の一つ(「文部省往復」より)。「京」の異体字である「京」字が使われています

※4 詳しくは『東京大学百年史』通史二の第六編第三章第三節の五「荒木文相による大学改革問題」(p877～)をご覧ください。

※5 詳しくは『東京大学百年史』通史二の第六編第四章第一節の二「東京帝国大学接収問題」(p976～)をご覧ください。



※6 東京大学文書館デジタル・アーカイブの最首悟関係資料より、「たたかひの原点到ち立ち戻れ!」と大書されたビラ(1968年)。最首さんは教養学部助手として東京大学全学共闘会議の助手共闘に参加。2017年に当時の関係資料を文書館に寄贈されました

※6 国立歴史民俗博物館が2017年に開催した企画展示。大学闘争、三里塚、ベ平連など、1960年代を語る資料を約500点展示し話題に



※8 文書館所蔵の写真帖の一つ、明治41年7月の法学部卒業記念アルバムより。卒業生の顔写真はもちろん、当時の総長をはじめとする教員の顔写真、そしてキャンパスの様子までひと目で伝える貴重な資料です。昔は赤門の前を人力車が通っていたことも一目瞭然。→文書館デジタルアーカイブ <https://uta.u-tokyo.ac.jp/uta/sa/da/page/home>

さないといけないと思っています。

佐藤●制度史というより精神の歴史ですね。

淡々とした記述から精神が伝わる

岩田●いま読むと、実は百年史も完全にスクエアではないですね。筆致は淡々としていますが、個々人の発言も書かれていて、読めば人の考え方が伝わってくる気がします。私が特に興味を惹かれたのは、大学の自治と学問の自由という問題意識が象徴的に示される総長選挙の記述です。昭和13年頃になると荒木貞夫という陸軍出身の文部大臣が出てきて、選挙などけしからん、と言ってくる。でも、大学側が大臣と議論し、結果的に実質をあまり変えずに制度を残しています。大学が大学たらんとがんばっている姿が伝わります。記述は淡々としていますが、非常におもしろい※4。昨今の状況と似ている部分もあります。

照沼●実はそこは自分が書いたところです。当時の資料が残っていたからこそ書けた。先人たちが知恵をこらしてぎりぎりのところで資料を残してくれたのだと思います。

佐藤●占領軍が大学を本部に使いたいと言って、それを東大が断る辺りも見ものですね※5。戦時中の軍部すらやらなかったことをGHQはおやりになるのか、と迫っている。百年史を読むと、最初から国と大学が上下関係にあったわけではないことがわかります。百五十年史に向けては、山本義隆さんのような人も視野に入っているのが画期的ですよ。

谷川●百年史は運営側の考え方がよくわかる書籍ですが、闘った学生側の論理までは伝わりません。東大が発行主体となる書籍が東大と闘う側の視点を持つと標榜してよいか迷いますが、目配りする努力は必要だと思います。

佐藤●文書館が整理を始めている最首悟さんの関係資料※6とか、歴博「1968年」展※7にもつながる話です。ああいった資料も参照できる仕組みができるとよいですが。

森本●文書館は多角的な資料にアクセスできるように、というスタンスです。大学の基本資料も学生の寄贈資料も写真も。先日、卒業アルバム編集集と連絡がつき、戦後以降のネガ等を一式寄贈いただくことになりました※8。運動会とか学生寮とか、半分くらい大学資料と言えそうなものってありますよね。様々な視点の資料を編集室に提供したいと思います。岩田●百五十年史編纂に向けては、人的リソ

ースの確保が課題です。今いる人に負担がかかるやっつけいけないでしょう。

佐藤●百年史のときは寺崎先生や教育学部が使命感を持ってやったようですが。

照沼●先生たちのチームワークがよく、院生たちを有無を言わず動員していましたね。

佐藤●いまその形で無理やりやったら東大闘争が再燃するかもしれません。

苅部●話は変わりますが、今後のため、大学近くにある写真店と話したほうがいいと思うんです。おそらく大量に学生証用の写真をお持ちでしょう。ご主人が引退すると散逸するかもしれない。いろいろな部局印を作っていたハンコ屋さんはないんですかね。

大学の周辺にも大切な存在が

佐藤●文学部地下にあった時計屋のおじさんとか、組織の周辺にいる重要な存在ってありますよね。東大出版会の教材部もそう。学生のノート素材に本を出していました。

苅部●80年代まであった講義録ですね。自分で校閲する先生もいました。丸山眞男は買い取って活用していたようです。

佐藤●駒場の鬼仏表も一つの伝統でしょう。

谷川●時代錯誤社が毎年発行する「教員教務逆評定」は、学生には非常に重要な資料です。

福田●大学の存在意義を示し、社会における東大の価値を示すことが百五十年史のテーマだと思いますが、現状、部局史が少し心配です。戦後の学問の歴史を具体的に書く必要がありますが、それは専門の人がいないと難しい。日本史の院生だけでたとえば理学部の学問史を書くのは厳しいです。

岩田●サイエンスコミュニケーターの皆さんを巻き込むといいのでは？

佐藤●前にテーマ史の議論をした際、「膜」が面白いという話が出て、いろいろな学問に横串を通せそうだと盛り上がりました。その辺りを進めるには外の目も必要でしょう。

谷川●東京大学百五十年史というときの東京大学とは経営側のことなのか。学生や職員はどうなるのか。東大のなかの様々な視点をどう歴史的に組み込むかが課題かと思います。

佐藤●次の総長の任期が終わる翌年の2027年が百五十年周年です。現体制の間に、全学的な事業の開始がないといけません。まだ具体的にどうこうするとは言えない段階ですが、編集室でできる作業を進めていきましょう。

COVID-19 コロナ禍 vs 東大

関連活動ピックアップ集

世界各地で未曾有の脅威となっている感染症の影響で活動が大きく制限される中でも、東京大学の教員、職員、学生、卒業生たちは、各々の持ち場でできる活動を日々続けています。数ある取組みの中から5つの話題をピックアップして紹介します。

1 職員有志が病院で一日勤務

「病院1日応援スタッフ」の試みを全学で展開

コロナ禍の最前線で高い緊張感のなか職務を続ける医学部附属病院と医科学研究所附属病院の皆さんを支援する「病院1日応援スタッフ」の試み。5月1日に東大ポータルで募集が始まり、志願者が順に応援勤務を行っています。これまでの参加者は延べ45名（6月5日現在）。その一人、本部協創企画課の島津斉明さんに聞きました。「募集を見てすぐに応募しました。小さい子や高齢者と同居しているわけではなく感染リスクがそう高くない自分は適役だと思ったのと、混乱する世の中で少しでも役に立ちたいという気持ちでした。5月11日の9時に東大病院に集合し、まず担当したのはかかりつけ発熱外来への患者誘導です。外来診療棟入口に待機し、2時間で10人ほどの外来患者を別の診療スペースへ案内しました。特に重篤な人はいませんでした。その後は地下1階の執務室で処方箋を院外薬局に送付する手伝いをしました。処方箋と連絡用紙を突合したり、近隣にある薬局まで処方箋を持参したり、コロナ対応の判子を用紙に押す作業もありました。初の病院勤務でしたが、忙しさに加え、重要な個人情報が多くてミスできないというプレッシャーが高い職場なんだ、と実感いたしました」。

医療現場の皆さんの尽力が続いています。



島津斉明さん

2 東大卒住職のZoom坐禅会を実施

相談支援研究開発センターの学生相談所が主催

学生向けオンライン坐禅会が5月11日に開催されました。当初は大阪・天正寺の佐々木榮堂住職を招いて3月に青山の相国寺別院で行う予定でしたがコロナ禍の影響で延期に。活動制限が続く中でもできることをしようとZoomでの開催となりました。住職は本学教養学部で科学史・科学哲学を専攻し、京都大学教育学研究科で臨床心理学を修めた学究肌。前所長の倉光修先生が京大時代の先輩だったことが学生相談所とのご縁でした。当日は住職が「自信と主体性」と座禅」と題して講話を実施。習慣は天性よりはるかに重要だというウィリアム・ジェームズの考えを紹介し、人間が主体的であるための姿勢としての坐禅を解説しました。その後はZoom越しに指導を受けながら95名の参加者が各々の居場所で坐禅を実践。「自覚していたもやもやが言語化された」「欲望に従うだけでは生を自ら損なっているのと同じ、とのメッセージに感銘を受けた」「自宅待機で凝り固まっていた身も心もすっきりした」などの声が参加者から寄せられました。住職による天正寺のZoom坐禅会は、誰でも参加可能です。
<http://tensho-ji.o.oo7.jp>



3 元留学生たちがマスクを病院に寄贈

中国校友有志

4月28日、東京大学に留学していた有志らが1,000枚のN95サージカルマスクを東大病院に寄贈しました。代表して北京校友会事務局の佐野文明さんが病院の岩瀬静雄事務部長にマスクを手渡す場には藤井輝夫理事・副学長も同席。手渡された箱には、ある歌の一節が貼られていました。「舳に立ちて我よばば魍魎魍魎も影ひそめ金波銀波の海静か」（一高察歌「嗚呼玉杯に花うけて」より）。東大の力を結集して新型コロナという化け物を倒してほしい。そんな願いが伝わります。その後も元留学生からはフェイスシールドなどの医療物資寄贈が続いています。



4 学生ベンチャーが本郷の飲食店を支援

ランチサブスクリプションサービス「Gocci」

コロナ禍に苦しむ本郷の飲食店を応援しようと新サービスを展開しているのは、東大発ベンチャーの株式会社LeadX。13,200円（税込）を払えば加盟店のランチメニューを1日1回1ヶ月間食べられるというサブスクリプション企画です。ラクロス部時代によくお世話になった本郷のお店の味を残したいという気持ちからこのプロジェクトを開始したのは、法学政治学研究科に在学中のCEO前田将太さん。ラーメン、エスニック料理、定食、カフェ……。5月末時点で22を数える加盟店の中には、あなたの大好きなあの店もきっとあるはず！
<https://gocci.me>



5 部員が実演指導する在宅筋トレ動画を配信

東大運動部横断強化プログラム

4月13日～5月16日、東京大学運動会に所属する5つの運動部が連携し、家でもできるトレーニングメニューを順番に実演して紹介する動画シリーズを展開しました。ラグビー部が教えるプッシュアップバーブーンジャンプ、アメフト部が教える立甲エクササイズ、漕艇部が教えるブルガリアンスクワット、ラクロス部が教える加重クランチ、応援部チアが教えるスプリット（下画像）、さらに応援部リーダーが教える大車輪（持久力up）などなど、それぞれの得意分野を活かした好プログラムです。Twitterの#東大運動部横断強化プログラムを閲覧あれ。






海と希望の学校 in 三陸

第8回

三陸を舞台に、岩手県大槌町にある大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターと、社会科学研究所とがタッグを組んで行う地域連携プロジェクト——海をベースに三陸各地の地域アイデンティティを再構築し、地域に希望を育む人材を育成するという文理融合型の取り組み——です。3年目を迎えたわれわれの活動や地域の取り組みなどを紹介します。

再始動、希望のトリコロール

北川貴士  大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター 准教授

東日本大震災で被災し、不通となっていたJR山田線・宮古-釜石駅間が三陸鉄道（三鉄）に移管され、昨年2019年3月23日、リアス線として8年ぶりに復活しました。しかし同10月13日、リアス線は台風19号の大きな被害を受け、運休を余儀なくされました。釜石市・鶴住居復興スタジアムで開催予定であったラグビーワールドカップ2019™日本大会・カナダ対ナミビア戦が中止になるなどの台風の影響の詳細については、第5回でお伝えした通りです。

復旧工事は急ピッチで進められ、今年2020年3月20日、最後の不通区間であった陸中山田-釜石駅間（28.9キロ）での運行が再開しました。第3セクターの路線としては全国最長の163キロが、再びつながり全線開通となったのです。再開当日は、晴れていたものの県沿岸部全域に暴風警報が発令され、始発から運転の見合わせや遅れが相次ぐ事態となりました。大槌町では史上1位の最大瞬間風速42.1メートルを観測するほどでした。また、新型コロナウイルスの感染防止の措置で、釜石市で予定されていた記念式典は中止となりました。しかし、「再開そろそろだね」と全線開通を心待ちにしていた多くの住民の方々の思いがお天道様に通じたのか、区間を大幅に短縮という形にはなりましたが、全線運行再開の記

大槌駅のホームに入線する三陸鉄道の気動車（36-700形式）。青、赤、白のトリコロールが快晴の空に映える（2020年5月12日撮影）



念列車は走ることができました。

翌々日の22日には早速、東京オリンピックの聖火を「復興の火」として宮古から釜石まで三鉄で巡回するイベントが行われました。今後は、青、赤、白の列車の音が、毎日、センターのある大槌にも響くこととなります。ただ、新型コロナウイルス感染拡大の影響で今年度は大型のイベントが開催されないため、もともと予約の少なかった団体旅行にキャンセルが出ているそうです。逆風の中での再出発ですが、三鉄は幾度となく津波・台風といった困難を乗り越えてきました。三鉄トリコロールはいわば沿岸被災地の象徴。青は「三陸の海」、赤は「鉄道への情熱」、白は「誠実」を表しています。今後も走

り続けることで、地域の方々に日常生活の足だけでなく、希望も与え続けてくれると思います。延期となっている「海と希望の学校 in 三陸」主催のイベント「海と希望の学校 on 三鉄」も来年にはぜひ開催し（2021年2月予定）、三鉄と沿岸地域を盛り上げていきたいと思っています。



台風19号の大雨により路盤が流失し、レールが宙づりとなった箇所（山田町船越：下写真）も補修されました（2020年5月12日撮影）



三鉄オンラインショップ「さんてつ屋」では、さまざまな地元コラボ商品を販売しています。<https://sanrikutetsudou.shop-pro.jp/> 三鉄ブログはこちら <https://www.sanrikutetsudou.com/blog/>

「海と希望の学校 in 三陸」動画を公開中→YouTube サイトで **海と希望** と検索！

制作：大気海洋研究所広報室（内線：66430）



総長室だより

第27回

～ 思いを伝える生声コラム～

東京大学第30代総長

五神 真



新しい日常の創造

5月25日、政府による緊急事態宣言の解除を受けて、東京大学の活動制限も緩和に向かっていきます。しかし、東京都の感染者数はなかなか収まらず落ち着かない毎日です。通常であれば、講義や実験あるいは課外活動などのキャンパス生活を満喫しているはずですが。しかし今年は様子が全く違い、講義はオンラインのみ、とりわけキャンパスでの新しい大学生活を楽しみにしていた新入生のみなさんには申し訳なく思っています。

大学は様々な人々が集い、顔を合わせ、それぞれの考えを自由に語ることが許されている場です。この大学の根本の機能が制限されているのです。とはいえ、これが永久に続くわけではありません。今は、私達が当たり前と考えていた日常の価値を再考し、その先の未来について前向きに考える機会としたいと思います。

私達はインターネットを介してサイバー空間を参照することにすっかり慣れてきました。スマホやパソコンでの遠隔接続はwithコロナ生活に欠かせません。オンライン講義、オンライン会議のおかげで大学も活動を継続できています。便利だと思ふことも多々ありますが、やはりリアルな交流とは違います。一日オンライン会議を続けると、夕方にはぐったりです。しかし後戻りはできません。サイバーとフィジカル、バーチャルとリアルの二つを賢く行き来しながら、ポストコロナの新しい日常を創造していかねばなりません。

さて、東京大学は11の世界トップ研究大学による国際研究型大学連合（IARU）に加盟していますが、4月のケープタウンでの学長会議は中止となりました。しかし先日、議長である私の発案で、オンライン学長会議を行うことになりました。どの大学もオンキャンパスでの活動は停止に追い込まれ、たいへんな苦労を経験していました。足止めされた留学生を本国にある連携校と協力して支援することや、オンラインでの講義のシェアや学生交流などが提案されました。感染には、地域、人種、ジェンダー、障がいの有無、貧富の差はありません。その一方で、コロナ禍で社会に、むしろ分断と格差が拡大していることも、学長たちとの討議から浮かびあがってきました。普遍的価値の追求である学問に、国境はありません。その意義を共有していることに支えられた信頼と共感の力を再認識しました。分断に向かう世界の中で、アカデミアのネットワークは国際協調とコモンズ構築の鍵となるはずですが。

感染症との戦いは長期化しますが、必ず終息します。この困難を学びのチャンスととらえ、希望をもって共に新しい日常を創っていきましょう。

シリーズ

第26回

連携研究機構

宇宙理工学
連携研究機構



の巻



話／機構長
中須賀真一先生

地上と衛星から進める深宇宙探査

——この機構には前身があるそうですね。

「工学系研究科と新領域創成科学研究科も協力する形で活動してきた理学系研究科附属宇宙惑星科学機構（UTOPS）を全学組織に拡充しました。UTOPSの長を務めてきた星野真弘先生を機構長に昨年10月に発足し、星野先生の研究科長就任を機に私が河川に継ぎました」
「理学系では、チリのアタカマ砂漠にあるTAOのような地上の望遠鏡を使って深宇宙を観測してきました。工学系では、超小型衛星を開発して宇宙空間から観測してきました。地上からの情報と宇宙からの情報を融合して宇宙探査をさらに進めるのが、UTOPSから続く任務です。特に超小型衛星を使う宇宙科学や深宇宙探査を強化していて、現在は月のラグランジュポイントへ向かう探査機EQUULEUSの開発を進行中です」

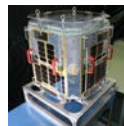
「もう一つ重要な任務は学生の教育です。宇宙科学に関わる学生に、衛星開発という大きなプロジェクトを手がける経験をさせたい。昨今の日本では宇宙探査に限らず大きなプロジェクトを回した経験を持つ人材が足りません。優秀な若者たちにその機会を提供します」

——超小型衛星の開発チームは何人くらいですか。

「EQUULEUSの場合は20人ほどです。ほとんどは大学院生ですが学部生もいる。意思決定まで学生が担いますから、参加すると相当鍛えられます。たとえば、はやぶさ2のリーダーを務めた津田雄一さんは、2003年に世界初の1kg衛星を打ち上げたときの主要メンバーです。その少し下にいた中村友哉さんはベンチャーを立ち上げて宇宙ビジネスを展開中。こうした先例を見ながら、研究の道に限らず、宇宙理工学で培ったことを社会貢献へとつなげる将来を考えてほしいんです」

——では、10年スパンでの展望を教えてください。

「ぜひやりたいのは系外惑星の探査です。広大な宇宙で惑星を見つけるには多くの衛星が必要で、それには超小型衛星が最適です。地球型惑星を見つけて直接観測したい。中央の恒星が明るすぎるので惑星を直接見るのは困難ですが、複数の衛星による編隊飛行などの工夫で挑戦します」



打ち上げを待つ
位置天文衛星
Nano-JASMINE

「コロナ禍がなければ3月に発足記念シンポジウムを行う予定でした。超小型衛星の可能性を宇宙科学コミュニティや国に紹介し、議論するための機会でした。宇宙理工学を大学だけで進めるのは困難で、国や社会の支援が必要ですから、そこは今後も訴えていきます。地球観測も農林水産業もエンターテインメントも関わる宇宙は、社会にとって大きな意味を持ちます。あらゆる分野の皆さんに空の彼方を見上げてほしいですね」

ワタシのオシゴト 第170回

RELAY COLUMN

法学部学務担当
上席係長 **有馬邦彦**

感謝! 感謝!



広い事務室です

昨年4月より法学部の学務担当という職に就いておりまして、今年度で2年目を迎えました。伝統部局における組織の中で極小の一端を担っているところであります。業務内容ですが、大雑把には学部教育・大学院教育の事務を司る各チーム及び留学生担当のサポートといったところで、現状で言うと、例えば第3期中期目標期間における法人評価関係のとりまとめ等であり、学務系が抱える共通部分のオシゴトといったところでしょうか。とは言いつつも、逆に周りの方々から多くのサポートしていただいているのが実態です。みなさま、本当にお疲れ様です。大変感謝しています!

最近は加齢とともに道でツmazuki、階段でツmazuki、すっかり「ニブ〜イ」オチサンになりつつありますが、生活の一部ジョギングを頼りに少しでも老化防止に役立てばと思っている次第です。今のところ健康である自分に感謝しています!!



駅伝大会にて(9年ほど前ですが……)

得意ワザ: 立ち寝

自分の性格: マイペース

次回執筆者のご指名: 池田洋さん

次回執筆者との関係: タスキ仲間

次回執筆者の紹介: 炎のおやじランナー

UTokyo 第20回

バリアフリー最前線!



熊谷晋一郎室長が
取材原稿で伝える
障害研究の現場⑦



世界にそそぐ視線を揃える

: 質的心理学から見えるバリアフリー支援

中学までは田舎で不自由なく過ごすも、高校ではその地方の進学校に入り、自信のなさや活舌の悪さも影響してか、人間関係に“居心地の悪さ”を感じていた。当時の能智氏はその理由を広く言葉の問題に見出し、本学入学後は文学部心理学科で言語心理学を学ぶ。卒業論文では、言い間違いをテーマに実験的な研究を行ったが、自身がこれまで抱えてきた問題意識に答えられていない感覚が残り、大学院へ進学する。

教育学研究科
能智正博 教授の巻



修士課程で、言いたい言葉が出てこない「喚語困難」という失語症の症状が、前後の文脈に影響されることを明らかにした。しかしその困難がその人にとってどのような意味を持つかに迫れていないと感じ、博士課程で様々な研究方法を模索する中で、重度障害のあるわが子に対して「人間性」を感じるようになるまでの親の心理的プロセスを、質的研究の手法で明らかにしたD・ビクレン教授の論文に出会う。心理学研究室の先輩の後押しもあり、ビクレン氏の研究室に留学。頭部外傷の後遺症を持つ人々の自己像の変遷をテーマに質的研究を行い、帰国後は、専門誌の発行や学会の設立等を通じて、質的心理学を国内に紹介してきた。

氏によれば質的心理学は、人の行動を外から予測しコントロールするために数量化・モデル化する従来の行動科学とは異なり、その手前にある概念化・言語化の過程に内在的に寄り添おうとする。例えば、“暴力的な行動”をカウントする量的研究は、“暴力”という概念の定義を所与とすることが多いが、質的研究は、その概念がいかに心や社会の中で成り立っているかを検討する。

失語症など脳損傷症状をもつ人を対象に研究してきた能智氏は、自分の研究は単に「彼ら」の特殊な経験を描き出そうとしているだけではなく、失語症者と自分がともに生きている「共通の世界」を理解することが目標だという。その過程で、相手の話が自分の話にふとつながる瞬間があり、それが彼らのために何ができるのか、という問いを導くのだと強調する。優れた支援は、対象者を自分と切り離して扱うのではなく、世界に注ぐ視線を揃えた先に実現する—能智氏の研究は、制度化される中で失われがちな、重要な支援者の姿勢を指し示している。

バリアフリー支援室 ds.adm.u-tokyo.ac.jp

インタープリターズ・第154回 バイブル

情報学環 教授
科学技術インタープリター養成部門

佐倉 統

科学技術と政治的判断

この原稿を書いているのは2020年5月30日、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の被害が広がっている最中だ。数か月前から世界中で同じ病気が蔓延している、その対応策次第で各国首脳への国民からの支持に明暗が分かっている。今のところ、ドイツ、韓国、台湾、ニュージーランドのトップは支持率を上げ、アメリカ、ロシア、フランス、そして日本は下げている。日本は感染症そのものの被害は欧米各国に比べると断然少ないので、この現象はおもしろい。

安倍首相が支持率を下げている理由はたくさんありそうだが、そのひとつは、責任との向き合い方だろう。感染症の専門家たちに判断を委ねすぎていて、みずからの責任を回避していると受け取られているのだ。

しかるべき専門家のアドバイスをきちんと聞くことは、とても大事だ。感染症対策のような専門的知見が決定的に重要な領域については、それは不可欠である。だからそのこと自体は誰も悪いとは思っていない。むしろ専門家会議の立ち上げが遅すぎたぐらいだとすら言われているぐらいだ。

しかし、非常事態宣言を出すのか出さないのか、終了するのかしないのか、といった最終的な政策決定は、これは政治家が責任をもって下すことである。というか、政治家ってそのためにいるんだろう。専門家がこう言ったからと、判断をすべて専門家に押しつけるような政治家の姿勢が市民の目には責任のがれとうつり、支持率低下を招いている。

これは政治家の人気に影響するというだけの話ではない。専門知を政治や社会の意思決定にどのように使っていくか、使いこなしていくか、そのデザインがうまくできていないという日本の問題がここに凝縮されている。

政治家に科学技術をどのようにわかってもらうのか。科学技術コミュニケーションにとっても重要な課題なのだけど、どこをどうしていけば良いのか、正直まったくわからない。政治家の資質に責任を負わせてすむ問題ではない。今回のコロナ禍がきっかけとなって、少しでも事態が改善される方向に進められればうれしいのだが。

科学技術インタープリター養成プログラム
science-interpretor.c.u-tokyo.ac.jp

蔵出し! The University of Tokyo Archives 文書館 ぶんしよかん



第26回

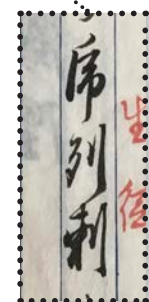
収蔵する貴重な学内資料から
140年を超える東大の歴史の一部をご紹介します

138年前のコレラ流行と東大の対応

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、本学の令和元年度学位記授与式・卒業式は規模を縮小して挙行、そして今年度入学式式典も中止になり、キャンパスへの入構なども大幅に制限される事態となりました。こうした現状と類似した状況が、過去にも幾度か起きていたことが当館資料に残されています。今回は明治15年のコレラ（虎列刺／席列刺）流行時における本学の対応についてひもといていきましょう。

この年の流行は、日本において明治期以降最大のコレラ流行となった明治12年より規模は小さいものの、最終的な国内罹患者は5万人超、死者も3万人を超えました。5月末に東京でコレラ患者が確認され、東京府は7月に東京検疫局を新設していることから、東京での危機感の高さがうかがえます。

当館所蔵の『校中往復 明治十五年分 全壹冊』（S0005/11）に綴じられている6月16日付「學生生徒中虎列刺病患者有之節心得方ノ件」には、「該病ノ発シタル舎或ハ教場ハ医員ニ於テ夫々消毒法ヲ行ヒ其舎又ハ教場ヲ鎖スベシ 尤モ発病室同舎ノモノハ消毒法ヲ行ヒシ后豫備室ニ送り室内之物品モ消毒法ヲ行フニ此レハ携出スルヲ許ササル事」と罹患者が発生した建物・教室の医員による消毒や封鎖処置が記されていますが、このあとには「該教場或ハ舎決シテ餘人ヲ入ラシムヘカサル事」と念を押した一文が朱書きで付記されています。この文書にはこうした朱書きや付箋が多くみられ、猛威をふるう流行病の対策に追われる大学の慌ただしい雰囲気を感じられます。



このほか、文部省へ出された学位授与式の延期伺いや、罹患者と接した際の出勤差し控えについての文書が残されており、138年前の本学においても、感染状況を把握しながら柔軟な運営につとめていた様子がわかります。（特任研究員・千代田裕子）

東京大学文書館 www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/

トピックス 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features,Articles)に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル (一部省略している場合があります)
5月14日	大気海洋研究所	シアノバクテリアの休むという生存戦略 不活性な細胞が分布範囲の拡大に寄与する
5月14日	広報戦略本部、医学系研究科・医学部	パンデミック時の心のケア 新型コロナウイルスによるストレス対処情報サイト「いまここケア」を公開
5月19日～6月9日	本部広報課、工学系研究科・工学部、医学部附属病院、総合文化研究科・教養学部、農学生命科学研究科・農学部	超小型衛星に2体のガンブラを載せて宇宙空間から大会応援メッセージを発信 無月経などの健康問題をケアして女性アスリートに最高のプレーを 障害は機能を失わせるだけじゃない! パラ選手の脳研究が示す人類の可能性 日本にも広がる「海のエコラベル」とスポーツの祭典との関係と課題 / 「淡青」41号「オリパラと東大。」
5月20日	本部法務課	総長選考日程の変更について
5月21日	総合文化研究科・教養学部	世界初・無機固体中の電子の核生成 - 核成長による相転移を発見
5月21日～6月4日	広報戦略本部、ニューロインテリジェンス国際研究機構、未来ビジョン研究センター、先端科学技術研究センター	脳の臨界期の引き金とブレーキを解明。障害・病気の解明と、AI研究との融合を目指す。 日本からコンゴの紛争解決に取り組む、高校教師出身の研究者。 社会の“流れ”をスムーズに。「渋滞学」の提唱者は現場に通う。 / UTOKYO VOICES 085-087
5月22日	本部国際戦略課	北京大学創立122周年での総長スピーチ
5月25日	理学系研究科・理学部	ツバルのサンゴが記録していたサンゴ礁劣化の歴史 サンゴ骨格年輪に黒色バンドとして記録された無酸素環境
5月25日	宇宙線研究所	東京大学、KEK ハイパーカミオカンデ計画の推進に関する覚書を締結
5月25日	広報戦略本部	研究コミュニケーションコンテスト3MTをオンラインで開催
6月1日	情報理工学系研究科	神経の確率的スパイク発火による秩序生成機能の発見
6月2日	広報戦略本部	不平等の複雑な問題 東京フォーラム2019パラレルセッション「地球時代の不平等」レポート
6月3日	生産技術研究所	生研公式バーチャル背景画像を公開
6月5日	先端科学技術研究センター、アイソトープ総合センター	新型コロナウイルス抗体 第二回東京の500例測定結果について
6月5日	本部広報課、農学生命科学研究科・農学部	温泉でチョコレートを作りながら学んだこと～伊豆の樹芸研究所での5日間のゼミを通して学生達が考える～
6月8日	本部広報課	東京大学、理化学研究所、日医工、第一三共による新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 治療に向けたナファモスタット吸入製剤の共同研究開発に関する基本合意のお知らせ
6月9日	生産技術研究所	鈴木基之名誉教授が瑞宝中綬章を受章

新型コロナウイルス感染症対応に関する本学の発表まとめ(4月8日～6月8日)

4月8日 / 7月11～12日に予定していた「高校生のためのオープンキャンパス2020」の開催取りやめを発表 (本部社会連携推進課)。

4月10日 / 不安や悩みを感じる学生のための相談施設を紹介 (相談支援研究開発センター)。感染流行シミュレーションを掲載 (理学系研究科)。

4月15日 / 宿舎にいる学生向けの窓口情報を掲載 (本部奨学厚生課)。

4月21日 / 総長メッセージ (3本目) を掲載。緊急対策基金の設置を発表 (本部渉外活動支援課)。

4月23日 / 家計が急変した学生への窓口を案内 (本部奨学厚生課)。新型コロナウイルス感染症に関する医学的情報を掲載 (保健センター)。

4月24日 / 感染者発生を発表 (第4報)。前期授業料の口座振替日延期を発表 (本部経理課)。

5月8日 / ファビピラビル (アビガン) とナファモスタットメシル酸塩 (フサン) の併用療法の特定臨床研究開始を発表 (医学部附属病院)。

5月11日 / 高齢者の健康を守るための情報「お

ちえ」を公開 (高齢社会総合研究機構)。家計が急変した学生への授業料免除情報を掲載 (本部奨学厚生課)。

5月12日 / 総長メッセージ (4本目) を掲載。

5月13日 / edX・Couseiraの特別支援プログラムへの参加を発表 (大学総合教育研究センター)。

5月14日 / ネコ間で新型コロナウイルスが感染伝播するとの研究成果を発表 (医科学研究所)。

5月15日 / キャリアサポート室の対応情報を掲載 (本部学生相談支援課)。心の健康を保つための情報を掲載 (保健センター)。さつき会応援奨学金の募集を発表 (本部奨学厚生課)。緊急給付型奨学金などの緊急学生支援パッケージの情報を掲載 (本部奨学厚生課)。ストレス対処情報サイト「いまここケア」を公開 (医学系研究科)。東京都の500検体の抗体陽性率検査結果を発表 (先端科学技術研究センター、アイソトープ総合センター)。

5月20日 / ファビピラビル (アビガン) の合成中間体の高効率合成法開発を発表 (理学系研究科)。

5月22日 / コロナウイルスの遺伝情報の機能解明の研究成果を発表 (アイソトープ総合センター)。

5月29日 / 「東京大学における行動指針 (活動の制限)」を更新。学生支援緊急給付金情報を更新 (本部奨学厚生課)。

6月1日 / 活動制限指針レベル引き下げを発表 (レベル3→レベル2)。総長メッセージ (5本目) を掲載 (“With-Corona” “Post-Corona” の新しい大学の創造に向けて)。

6月3日 / 抗体測定データを発表 (先端科学技術研究センター)。学生支援担当理事メッセージを掲載 (学生支援緊急給付金の募集開始)。

6月4日 / CRISPR-Cas3を用いたCOVID-19迅速診断法の開発を発表 (医科学研究所)。学生支援担当理事メッセージを掲載 (運動会の特設ページ「#最高の自宅待機をしよう」を紹介)。

6月8日 / 東京都の500検体の抗体陽性率検査結果 (2回目) を発表 (先端科学技術研究センター、アイソトープ総合センター)。



※「学内広報」では広告掲載を受け付けていません。出稿を検討したいという皆様のお問い合わせをお待ちしております。↓本部広報課（03・5841・2031）



CLOSE UP

オンライン会議用の公式バーチャル背景画像を公開 (生産技術研究所)



今井公太郎教授（右上）が設計に携わった大規模実験高度解析推進基盤（千葉実験所）の画像もあります

コロナ禍における活動制限が続き、オンラインによるミーティングが日常的になっているなか、生産技術研究所が、緑あふれる所内の風景やロゴを配置したバーチャル背景画像を公開しました。オンライン会議の背景画像としてご活用ください。個人でのご使用に限り、商業目的での使用はできません。画像内のクレジットやロゴは改変や削除をせずにご利用ください。利

用の際は、ビデオのミラーリングをオフ、カメラの設定を16:9（ワイドスクリーン）にするのがコツ。こうするとロゴが反転されず、画像が切れずに表示されます。駒場リサーチキャンパスなどの写真7種類+ロゴ、6色の地色+和・英のロゴという計19パターンが利用可能です。下記URLからぜひダウンロードしてください。
<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3302/>



CLOSE UP

ハイパーカミオカンデ計画に関する覚書をKEKと締結 (宇宙線研究所)



覚書に署名する五神総長と高エネルギー加速器研究機構の山内機構長

東京大学と高エネルギー加速器研究機構（KEK）は、これまでハイパーカミオカンデ計画構想を具体化するための機関間の協力に関する覚書により、関係を強固なものにできました。このたび、本計画の本格着手に併せて連携をより一層強化し、着実な推進を図ることを目的として、本年5月、ハイパーカミオカンデ計画の推進に関する覚書を締結しました。

カンデ検出器を建設、KEKがJ-PARC大強度陽子加速器とニュートリノビームラインの増強および前置検出器の整備を行い、両機関がそれぞれの運用に責任を持つことなどを挙げています。

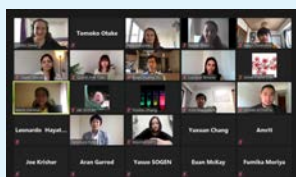
このほど締結した覚書では、両機関が連携・協力して本計画を推進するため、合同でハイパーカミオカンデ計画推進室などを置くことに加え、東京大学が岐阜県飛騨市にハイパーカミオ

今回の締結では、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の最中のため、一堂に会する形での締結式を行わず、両機関の代表がそれぞれ覚書に署名し、郵送で交換する方法が取られました。ハイパーカミオカンデ計画の実験開始は令和9年を目指しています。国内外からのパートナーと協力し、宇宙の物質の起源や究極の物理法則といった根源的な謎に迫ります。



CLOSE UP

研究コミュニケーションコンテスト3MTをオンラインで開催 (広報戦略本部)



2008年に始まり、今では世界85か国、900以上の大学で開催されている3MT。今回は在日オーストラリア大使館のビタ・アーバックル参事官、日本科学未来館の谷村優太氏、生産技術研究所の大島まり教授が審査員を務めました

1枚のスライドを使い、英語で、3分以内、非専門家に向けて研究をわかりやすく説明するコンテスト「3MT」(Three Minute Thesis)。東大では2回目となった今年は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受け、すべてオンラインでの開催となりました。総勢40人の応募者の中から事前選考を勝ち抜いた博士課程の学生19名は、大会前に3分間のプレゼン動画を自ら録画して提出。5月23日、3名の審査員が全員の動画を視聴した後、Zoom会議による審査で受賞者3名を決定しました。

程1年の中川悠太さん。がんの再発原因になると疑われる成長の遅いがん細胞を、マイクロ流体力学を用いて迅速に振り分けるシステムについて発表しました。「3分間はすごく短いので話の構成を考えると一番大変でした。普段から学会とか研究室のセミナーで話しますが、15分か20分は時間があります。そこが一番難しかったです」と中川さん。東大3MTの優勝者として、今秋、オーストラリアのクイーンズランド大学がオンラインで主催するアジア太平洋地域3MT大会に参加します。また、研究費として30万円が研究室に贈られます。

優勝したのは理学系研究科化学専攻の博士課



コロナの時代に

桜が無駄に咲いている——と思った。桜が咲くのはもっぱら桜の都合なのだろうが、私たちがはるか昔から、桜に心を添わせてきた。私たちが惜しみなく注ぐ賞賛は、桜にも力を与えているような気がしていた。

東大構内には多くの見事な桜があるが、この春はそれらを視界の隅に感じるだけで終わってしまった。いうまでもなく新型コロナウイルス感染症の流行で、社会が急激に不安に覆われ、活動の自粛が要請されたためだ。この文章を書いている6月初旬の時点で、東京大学はレベル2（中程度）の活動制限下にある。制限の緩和は徐々に進む見通しだが、解除となるまでには時間がかかりそうだ。

私が専門とする日本中世の社会では、戦乱や天災などとともに疫病の流行がやってきた。鴨長明（1155～1216）は、相次いで京都を襲った大火・竜巻・地震・飢饉を体験して、「ゆく川の流るは絶えずして、しかももとの水にあらず」と始まる『方丈記』を著した。同時期を描いた『平家物語』は、平家の栄華と滅亡を「諸行無常」の一語に収斂させた。万物が変転することを観照する無常観を抜きに中世という時代を語ることはできない。「無常」は、目先の利害や欲望に踊らされる

愚かさを誡める意味を持つ一方で、さまざまな問題に立ち向かう術を持たぬ段階の人々が、ふりかかる理不尽と折り合いをつけるためのロジックでもあった。

『徒然草』の兼好法師も無常の徒だ。花の盛りのみをもてはやす人々を批判し、散りぎわの風情を強調する。若者も壮健な者も、予期せぬ死を免れないと述べる。

だが『徒然草』には、「無常を悟ってはいけない、常住を心に銘ずるべきだ」と主張する人物が登場する。殖財に励む大福長者（大金持ち）である。兼好の対極にある生き方が、大福長者が求める「得」（利益）は「徳」に通じ、たしかなモラルと社会性の裏付けを持っていた。「常住」とは変転する日常を主体的に生き抜く姿勢をあらわすものだ。

コロナ禍について中世史に学ぶとしたら、知識人の唱える無常ではなく、より深層にあって社会を支えた常住の精神に拠るべきだろう。混迷の現在を抜け、常住を取り戻せば、再び思う存分桜を楽しむことができるにちがいない。

本郷恵子
（史料編纂所）

